



・2人の出会いは？

瑠子さんと出会ったのは高校時代だったと思いますが、正確にいつだったかは、実ははっきりとは覚えていません。今は公私共に信頼できる音楽仲間、大切な友ですが、高校時代当時はそこまで関わる機会はなかったと記憶しています。

・どんな緑高生だったか？

高校時代の私は、決して模範的な生徒だったとは言えないと思います。

吹奏楽部の活動に加え、音大受験の準備、さらにアマチュア楽団でのエキストラの仕事も始めていたため、自分の練習時間の確保やレッスン、部活動で精一杯の毎日でした。その影響で、授業中に眠ってしまうこともあったと思います。

遊ぶ時間も、勉強する時間も(言い訳かもしれませんが笑)ほとんどなく、音楽に向き合い続けていた高校生活でした。ですので、大きな声では言えませんが、後輩の皆さんのお手本になるような高校生ではなかったかもしれません。

・部活は

吹奏楽部に所属していました。

・ファゴットを始めたのはいつか？

ファゴットを始めたのは12歳の時です。音楽自体は、保育園の頃にピアノから始めました。

ファゴットは楽器が大きく、日本では子ども用の楽器があまり普及していないため、12歳という年齢でも比較的早い時期に当たると思います。

・当時の緑高はどんな雰囲気だったか

とても自由な校風だったという印象があります。進学校ではありませんでしたが、勉強だけでなく、高校生活そのものを皆が楽しんでいる学校でした。

生徒一人ひとりがしっかりしていて、本当に良い友人たちに恵まれたと思っています。先生方も、生徒の自由(少し自由すぎることもあったかもしれませんが)を尊重し、温かく見守ってくださっていました。

私自身、決して真面目な生徒ではありませんでしたが、先生方や学校全体に、いつも見守り応援していただいているという安心感がありました。本当に素晴らしい学校だったと思います。校舎は床も木で、かなり年季が入っていましたが、それも今となっては良い思い出です。

・音楽 III の授業について

音楽 III は音大受験に向けた授業でしたが、私の学年では「音楽 III」という名称ではなく、「楽典」と「ソルフェージュ」という形で行われていました。

というのも、私は芸術選択を音楽ではなく書道にしていたため、通常の音楽 III を履修することができませんでした。そのため、先生方が私が高校 1 年生の頃から動いてくださり、カリキュラムを調整してくださったと聞いています。

本当に、生徒一人ひとりの進路に向き合ってくれる学校だったと感じています。担当の先生は山口一郎先生でした。音楽室は当時、北館 1 階の東端にあり、瑠子さんと高校時代を共に過ごしたのもその場所でした。

高校 1 年生のときに東日本大震災があり、その後新校舎建設の話が進み、私たちの卒業と同時に新校舎が完成したと記憶しています。

・吹奏楽部について

私が入部した当時、吹奏楽部は 3 学年合わせて 100 人弱だったと思います。

1 年生の時から学生指揮者を務めさせていただき、一郎先生と相談しながら、練習方法や体制を少しずつ見直していきました。その結果、1 年生のときに初めて A 編成でコンクールに出場し、2 年生で県大会、3 年生で東関東大会へ進むことができました。それ以降、評価していただける機会が増えたのは、間違いなく部員一人ひとりの努力のおかげだと思っています。

学生指揮者として、時には厳しいことを求める場面もありましたが、同級生や後輩たちは音楽への情熱と向上心を持ち続け、最後までついてきてくれました。そのことに今でも心から感謝しています。

あの素敵な仲間たちがいたからこそ、今の緑高吹奏楽部があるのだと思います。

・音楽家を志したきっかけ

中学生の頃から漠然と考えてはいましたが、本当に進路として決意したのは高校 1 年生の夏だったと思います。その頃に、恩師である岡崎耕治先生と出会い、その出会いが、プロの音楽家を目指す大きなきっかけとなりました。

・2 年前に横浜でコンサートをしたきっかけ

以前から瑠子さんと何か一緒にできたら、という思いはありましたが、ジャズとクラシックというジャンルの違いもあり、なかなか実現することはありませんでした。

コロナ禍に、アメリカとフランスでお互いの近況を話し合い、励まし合う中で、ジャンルは違っても、音楽に対する姿勢や大切にし

ているものは共通しているのではないかと感じるようになりました。

その後、私がフランスでテーマを決めて公演を行う機会があり、大好きな地元・横浜をテーマにしようと考えました。開港から現在までの横浜を音楽で描きたいと思い、横浜市歌などを取り入れた作品を作りたいと瑤子さんをお願いしました。

こうして生まれた「横浜組曲」は初演こそフランスでしたが、「横浜」をテーマにした作品だからこそ、横浜で演奏したいという思いが強くなり、横浜での公演が実現しました。

・今年の抱負、活動予定

帰国後すぐに1月はオペラ《カルメン》から始まり、今年もオーケストラを中心とした活動になる予定です。拠点はパリですが、フランス国内や他のヨーロッパ諸国での公演もあり、旅の多い一年になりそうです。

また、オーケストラ・アカデミーのキャンプで指導を行う予定もあります。まだ未定ではありますが、年内にもう一度は日本に戻れたらと考えています。

初演に関わる機会もいくつか予定しております。さらに丁寧で深い音楽を紡ぐために自分自身ももっとも成長したいです。

・後輩へのメッセージ

自分を甘やかしたり、理由をつけて楽な方を選ぶことは、その時は楽で居心地が良いものです。

ただ、何かを本気で掴み取りたい、成し遂げたいと思うなら、それに見合った行動が必要だと思います。その過程では、迷ったり、自信を失ったりすることもたくさんありますが、そうして悩みながら進んだ先に、自分の道が見えてくるのだと思います。

同時に、できるだけ視野を広く持ってほしいとも思います。目の前にある選択肢だけがすべてではなく、少し外に目を向けると、思っている以上にさまざまな道や可能性があることに気づくかもしれません。

緑高には、そうした挑戦をしっかり応援してくれる環境があります。今しかない時間を大切に過ごしてください。しかし、頑張りすぎて体を壊さないよう、どうか自分のことも大切にしてください。